

本校生徒部では、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどによるトラブルを未然に防ぐ一助とするために「いわみの特別号」を発行し情報提供をしています。

### 学校ネットパトロール事業について

島根県教育委員会では、平成25年7月から県内のすべての公立学校を対象に「学校ネットパトロール事業」を実施しています。この事業は、インターネット上で行われるいじめや誹謗中傷、犯罪等を早期に発見し、対応することによって子どもを守ることを目的として、電子掲示板、ブログ等の検索や監視を行うものです。本校の結果については下の通りです。「リスクレベル中」については検知報告後すぐに指導を行いました。また、「リスクレベル低」については必要があれば指導をすることとしています。

	検知数	内 訳
H26.6～7月分	9件	リスクレベル中：1件      リスクレベル低：8件
H26.8～9月分	14件	リスクレベル低：14件
H26.10～11月分	8件	リスクレベル低：8件
H26.12～H27.1 1月分	9件	リスクレベル低：9件
H27.2～3月分	7件	リスクレベル低：7件

#### リスクレベルの分類

- (1) リスクレベル高A…犯罪予告や児童生徒の生命に関わる事案で緊急性の高いものであり、かつ実行の具体性が高い内容のもの。
- (2) リスクレベル高B…実行の具体性は乏しいが、リスクレベル高Aに準ずるもの。
- (3) リスクレベル中……緊急性はないものの、早期の指導・対応などが望ましいもの。
- (4) リスクレベル低……緊急性はないが、必要に応じて適切な指導・対応などが望ましいもの。

島根県教育委員会では学校ネットパトロール事業委託業者の協力で、ネットトラブル予防のためのメールマガジンを各学校に配信しています。今回はこのメールマガジンの記事を紹介します。

インターネットを利用したコミュニケーションは、文字によるやりとりが主流ですが、文字によるやりとりは、顔の表情や声の調子などがわからないため、対面のコミュニケーションよりも難しく、思わぬところで誤解が生じ、トラブルになることがあります。

今回は、文字によるやりとり特有のトラブル例についてお話しします。

#### 文字でのコミュニケーションにより生じる誤解

##### <例1>

生徒A：数学のテストどうだった？

生徒B：赤点だった……

生徒A：おまえ、馬鹿だなw (wは(笑)の意)

生徒B：うるせえ

このやりとりでは、生徒Aが、冗談で「馬鹿だな」と送ったものに対し、生徒Bが「うるせえ」と返しています。

しかし、この「うるせえ」は、本気で怒っているようにも、冗談で返しているようにも見え、Bの真意がわかりません。

<例2>

生徒C：Aくんからぬいぐるみもらった。

可愛くない

生徒D：何でそんなこと言うの？

Aくんがかわいそう

こちらは、生徒Cが、Aからもらったぬいぐるみについて、「可愛いよね？」という意図で、「可愛くない？」と問いかけたものです。

しかし、「？」を付け忘れたため、生徒Dには、「可愛くない」と否定的な発言をしているように伝わってしまっています。

---

### 誤解を生まないためのルール作り

---

このように、文字によるコミュニケーションでは、ささいなことから誤解が生まれる可能性があります。まずはこのことを、子供たちに理解させる必要があります。その上で、

- ・メッセージなどを送る前には、何度も読み返し、相手がどう感じるか、また、文章の中に誤解されそうな表現がないか、よく確認する。
- ・相手の発言で頭にくることがあっても、感情的になって言い返したりせず、落ち着いて相手の発言の真意を考える（自分が誤解していないか、よく考える）。また、クラスメートなど、直接話ができる相手の場合は、文字でのやりとりをやめ、電話や会って話をする。

…などのルールを作って利用させることも大切です。

特にLINE等の無料通話アプリでは、「メッセージを読んだら〇分以内に返事を書くこと」などの決まりを、子供たちが作っている場合もあります。

しかし、時間を気にしたやりとりでは、相手のことを思いやる余裕が生まれにくくなります。そのあたりを理解しながら無料通話アプリと付き合っていく必要があります。